

## 大庭班

大庭慎平・田中伸穂・鶴原研太郎  
・平賀圭佑・山中愛子

### ○準備に関する感想と反省

合同ゼミ本番までの準備期間で強く感じたことは、全体を通して去年よりもチームワークが不足していたことだ。去年とは全く異なるメンバーであったために、初めの頃はチーム内のコミュニケーションが薄く、指示が行き届かないことが多かった。また、3年生のこの時期は就職活動のために授業に出席することができず、メンバー全員が揃わないこともあった。そのため、作業の分担がうまくいかず、特定の人に作業が偏ってしまうことが多々見られた。

しかし、準備期間で感じたことは悪かったことばかりではない。良かったこともある。チーム内のコミュニケーションを向上させた結果、後半になってくると、リーダーがメンバーに作業を指示し、行ってもらう形が多く見られるようになった。リーダーが不在の時は、他のメンバーに指示を任せ、残りのメンバーを統率してもらうこともあった。これらのことは、お互いに信頼していなければできなかつただろう。

### ○当日の報告とそれに対する質疑の概要

今回、私達のチームは「貧困者を救済するために増税をすべきか」がテーマで、増税を行うべきではないという立場で挑んだ。

1990年代の不況によりパートタイマーやアルバイト、フリーターが増加し、現在ではネットカフェ難民と呼ばれる新たな貧困者層が出現している。そのような状況の中、増税を行うべきではない主な理由として、消費税は逆進性のため、税率を上げてしまつては貧困者の生活を苦しめる一方で救済することができないことを挙げた。

そのため、増税を行わずに貧困者を救済する方法として税の在り方を変える、国が仕事を与える、財政赤字を減らすの3点を挙げた。国が仕事を与えるという点でワークシェアリングを、財政赤字を減らすという点で長野県下条村を例に取つた。

質疑では、メンバー全員で相談し、内容に対し的確に指摘することができた。反論の時もメンバー全員で相談、発言できたことが良かった。事前に相手の反論の予測を立てていたこともうまくいった要因の1つだろう。

### ○当日の感想と反省

去年も同じことがあつたのだが、プレゼンの発表形式が双方で異なつていたのが残念だつた。私達がパワーポイントを使ってプレゼンを行つたのに対し、対戦相手の大学はナレーションの書かれた用紙と数点のグラフが載つた用紙を使いプレゼンを行つていた。ナレーションがあつたために内容を把握するには困らなかつたが、やはりプレゼンという発表の場では、パワーポイントがあつた方が視覚的にも見やすかつたと思う。

また、互いの見解の違いにより論点のずれが起き、互いの意見が相手にうまく理解されなかつたことがあつたのが残念である。

良かったことは、コミュニケーションの重要性を学ぶことができたことだ。そうでなければ、ここまで仲間を信頼して作業を任せることはできなかつただろう。私自身としても、リーダーとしての意識を高めること、指導力を身に付けるという課題を得ることができた。

今回のこの経験を活かして、今後、色々な事に取り組んでいきたい。

(文責 大庭慎平)